

Farmland  
Bank


# 平成30年度版 農地中間管理事業の優良事例集


令和元年6月  
農林水産省




# 目次


取組	地区名	
① 地図を用いた地域の話合いによる集積・集約化	かるまいまちおおしみず 岩手県軽米町大清水地区	
② 集約化に向け、担い手を中心となって地域の話合いを推進	かくだしにしね 宮城県角田市西根地区	
③ 法人を設立し、中山間の農地を守る体制を構築	まむろがわまちはつきだい 山形県真室川町八敷代地区	
④ 農地バンクを活用し、荒廃農地を解消	まえばししこざかし 群馬県前橋市小坂子地区	
⑤ 遊休化した樹園地を再生整備し、新規就農者へ貸付け	ふえふきしやしろちょうおか 山梨県笛吹市八代町岡地区ほか	 
⑥ 地域の話合いに基づいて集約化を推進	ひみしいなづみ 富山県氷見市稲積地区	
⑦ 機構関連事業による遊休農地の解消と担い手の規模拡大	たはらしわじおおた 愛知県田原市和地太田地区	 
⑧ 人・農地プランの話合いを通じ、分散錯圖を解消	ひこねしみなみみつやちょう 滋賀県彦根市南三ツ谷町地区	
⑨ 農地バンクによる地元と企業のマッチング	ひめじししもいせ 兵庫県姫路市下伊勢地区	 
⑩ 土地改良区が中心となり、担い手への農地集積を推進	てんりしならちょうにし 奈良県天理市檜町西地区	
⑪ 担い手不在地域の農地を、地区外の担い手へマッチング	ながとしたわらやまくろかわ 山口県長門市俵山黒川地区	
⑫ JAが中心となって基盤整備を進め、担い手が参入	まつやまししもなんば 愛媛県松山市下難波地区	  

 中山間地域における取組

 基盤整備を実施した取組

 集約化を進めた取組

 果樹地域における取組

 企業が参入した取組



【↑写真上：地図を用いた話し合いの様子 / 下：農地の利用状況を示した地図】

# ① 岩手県軽米町大清水地区

## 地図を用いた地域の話合いによる集積・集約化

**「取組のポイント」**  
町と農業委員会が連携し、地図を用いて話し合いをコーディネート

### 地区の概要

中山間地域で水稻や雑穀を栽培する地域。高齢化による農地の遊休化が懸念されるほか、**地区内外の農業者や小規模農家が入り組んで耕作し、非効率な営農となっていた。**

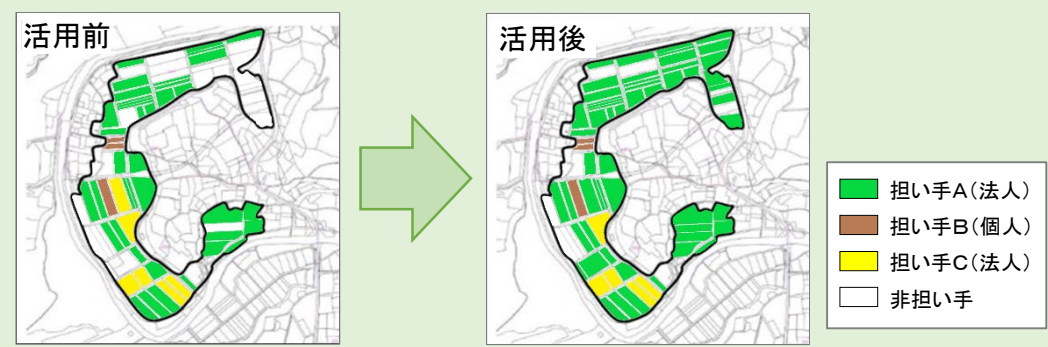
### 取組の内容

- 不在村地主から農地(1.7ha)を借りてほしいと相談を受けた担い手法人が、今後の農地管理を見据え、農地バンクの現地コーディネーターに事業の活用を相談。農地バンクと農業委員会が事業の説明や出し手との調整を行い、同法人に貸し付けた。
- この取組を機に、地区の出し手から同法人への貸付け希望が増えたことから、農地バンクは地区の農地利用を見直す契機として、**地図を用いた話し合い**を提案。町と農業委員会が連携して話し合いの場を設置するとともに、農業委員・農地利用最適化推進委員が**利用状況や今後の意向、遊休農地の情報等を地図に見える化**。
- 町・農業委員会・県・農地バンクが参画した地域の話合いの結果、**地区内の11.3haの農地を担い手2者に集積・集約化**していくことで合意。農地バンクを介して担い手へ転貸された。

### 取組の成果

- ✓ 受け手の声「農地バンクが間に入ってくれたことで、**手続きが楽になった。**」
- ✓ 担い手法人Aにおいて、**新規作物として大豆を導入。**

### 農地バンクの活用による地区内農業の変化



農地バンク活用面積	借入面積	11.3ha
	転貸面積	11.3ha
	新規集積面積	3.4ha
地区内農地面積	18.1ha	
集積面積・集積率	12.3ha (67.7%)	15.6ha (86.2%)
平均経営面積	4.1ha/経営体	5.2ha/経営体
平均団地面積	0.6ha/団地	0.7ha/団地



【↑ 集約化に向けた話し合いの様子】



角田市

宮城県

# 集約化に向け、担い手を中心となって地域の話合いを推進

## 「取組のポイント」

担い手と関係機関が連携し、集約化に向けた地域の合意形成が実現

## 地区の概要

山麓部に位置し、農地が平野部から山間部に広がる。水稻中心の作付けで、農地は30a、100a区画で整っているものの、担い手の耕作地は分散錯圃の状態であり、作業効率の低さが課題。

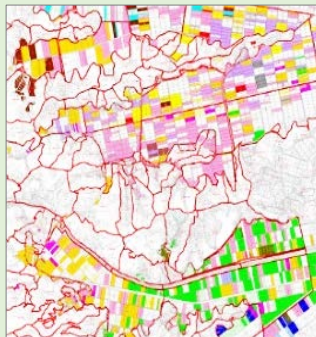
## 取組の内容

- ① 人・農地プランの話合いにおいて、担い手から分散錯圃を憂慮する声上がり、農業委員が市に対して関係機関を交えた担い手の話し合いの場の設定を要望。農地バンクの地域コーディネーター・県地方振興事務所・土地改良区等が参画し、農地バンクを活用した集約化を進めることで合意。
- ② 集約化を進めるため、担い手間で統一賃借料や集約するエリアを設定したうえで、関係機関と連携し、地権者を対象とした大字ごとの説明会を実施。出し手・受け手双方の条件や意見を踏まえ、農業委員と市が農地集約化の案を取りまとめ、欠席した地権者には、担い手自ら訪問し、説明。分散錯圃の解消が進んだ。
- ③ こうした取組をきっかけに、地域農業の発展を目指す「西根地区担い手農家協議会」を設立。地区内農家が主体となり、経営発展のための研修や、農地の集積・集約化に向けた話し合い等を行っている。

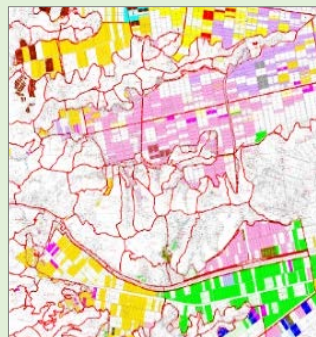
## 取組の成果

- 集約化により、
- ✓ 担い手の平均団地数は **11団地→4団地**に減少。
  - ✓ 担い手法人Aにおいて、**生産コストが減少**（見込み）
    - 10aあたりの生産費
    - 約64,000円→約61,000円
  - ✓ 作業員1人あたりの作業効率が**28%アップ**（見込み）
    - 1日あたりの作業可能面積
    - 1.8ha→2.3ha

## 農地バンクの活用による地区内農業の変化



活用前



活用後

担い手A(法人)
担い手B(法人)
担い手C(個人)
担い手D(法人)
担い手E(個人)
担い手F(個人)
その他の色 担い手(個人)

農地バンク 活用面積	借入面積	173.2ha
	転貸面積	173.2ha
	新規集積面積	9.2ha
地区内農地面積	421.6ha	
集積面積・集積率	235.7ha (55.9%)	242.9ha (57.6%)
平均経営面積	19.6ha/経営体	20.2ha/経営体
平均団地面積	1.8ha/団地	5.1ha/団地



### ③ 山形県真室川町八敷代地区

## 法人を設立し、中山間の農地を守る体制を構築

### 「取組のポイント」

- ✓ 地域の農地を守るため、担い手が中心となって話し合いを実施
- ✓ 行政が連携して法人の設立を支援



【↑写真：地域の話合いの様子】



真室川町

山形県

### 地区の概要

中山間地に位置し、水稻の作付けが大半。稲刈作業の共同化など、長年地域で協力して営農を行ってきたが、**高齢化による担い手不足**が懸念されていた。

### 取組の内容

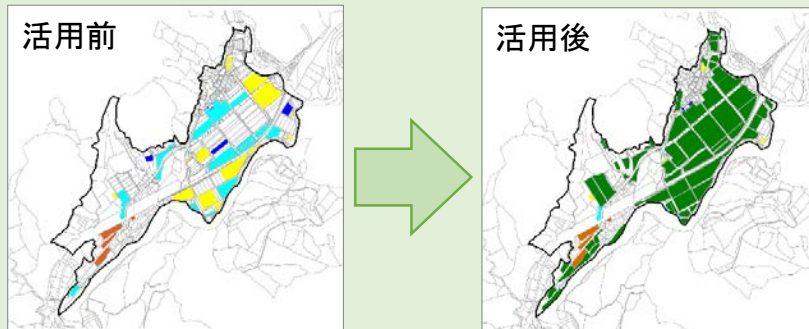
- ① 担い手不足に対する懸念から、地域一体となって農地を管理・活用する体制をつくる機運が高まりつつあった。そうした中、県の法人化勉強会を地区で開催したことをきっかけに、集落営農法人の設立に向けた取組が加速化。**地区の担い手が中心となって地域の話合い**を進め、合意形成に至った。
- ② その後、町・農業委員会が耕作者、所有者、相続関係者に法人化の確認を行い、合意を取り付け。また、地域の話合いの結果を踏まえて法人に**集積する農地の特定を進め、地図化し、話し合い**を進めた。
- ③ **地域集積協力金**を活用して**共同利用のための農業機械・資材**を調達。高齢な出し手も、**可能な範囲で農作業や水路・農道の管理に参加**し、受け手は規模拡大した農地で園芸作物(ニラ)の栽培に取り組むなど、地域一体となった農業経営や農地の保全に取り組んでいる。

### 取組の成果

- ✓ 出し手の声「**地元から離れて生活**しており、**農地がどうなるか不安**だった。農地バンクを介した契約だったので、**安心して貸付け**ができた。」
- ✓ 集約化により、**団地単位で作業**ができるようになり、**作業効率が大幅に上昇**する見込み。

〔圃場間の移動時間 約10分→約1分〕  
10aあたりの作業時間 約1時間短縮

### 農地バンクの活用による地区内農業の変化

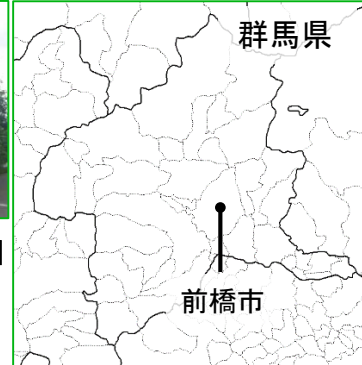


- 担い手A(個人)
- 担い手B(個人)
- 担い手C(個人)
- 担い手D(個人)
- 集落営農法人

農地バンク活用面積	借入面積	43.9ha
	転貸面積	43.9ha
	新規集積面積	19.6ha
地区内農地面積	53.9ha	
集積面積・集積率	24.4ha(45.2%)	44.0ha(81.6%)
平均経営面積	6.1ha/経営体	22.0ha/経営体
平均団地面積	0.2a/団地	2.8ha/団地



【↑整備前の農地の様子】



## ④ 群馬県前橋市小坂子地区

# 農地バンクを活用し、荒廃農地を解消

### 「取組のポイント」

- ✓ 耕作放棄された農地を農地バンクが再生整備し、担い手へ貸付け
- ✓ 市、農業委員会、地権者組合が連携し、地元調整を実施

### 地区の概要

赤城山南面に位置し、野菜、花卉の栽培や畜産経営などを行う。傾斜地が多く、基盤整備が未実施の区域は圃場が小さく分散し、**20年以上耕作されず荒廃が進んだ農地**が存在。害虫・有害鳥獣被害が問題となっていた。

### 取組の内容

- ① 地域住民から**長年にわたり耕作放棄された農地を解消してほしい**との要望を受け、市が荒廃農地解消を検討。農業委員会、農地バンクなどの関係機関と対応を協議し、**農地バンクが農地を借り受け**、再生事業を活用して**整備を実施**し、担い手に貸し付けることとなった。
- ② 国の事業に加え、県及び市の単独事業を組み合わせ活用したことで、地権者及び**受け手負担なしで整備を実施**。市・地権者組合・農業委員会が現地確認や地権者・借り手への事業説明を行い、同意を取り付けた。
- ③ **再生整備の取組を見た別の農業者**からも農地バンクへの貸し出し希望があり、併せて近隣の担い手へ転貸され、規模拡大につながった。

### 取組の成果

- ✓ 長年耕作されず、**荒廃がすすんでいた農地3.5ha**を解消。
- ✓ 法人経営体Fにおいて、ソバの作付規模を**2.4ha→6.0ha**に拡大。
- ✓ 取組が**近隣農地へ波及**し、さらなる集積が実現。

### 農地バンクの活用による地区内農業の変化



- 担い手A(個人)
- 担い手B(個人)
- 担い手C(個人)
- 担い手D(個人)
- 担い手E(個人)
- 担い手F(法人)
- 非担い手
- 耕作放棄地

農地バンク活用面積	借入面積	6.7ha
	転貸面積	6.7ha
	新規集積面積	4.8ha
地区内農地面積	303.9ha	
集積面積・集積率	33.8ha(11.1%)	38.6ha(12.7%)
平均経営面積	1.5ha/経営体	1.8ha/経営体
平均団地面積	0.2ha/団地	1.6ha/団地



笛吹市

山梨県

## ⑤ 山梨県笛吹市八代町岡地区ほか

# 遊休化した樹園地を再生整備し、新規就農者へ貸付け

### 「取組のポイント」

- ✓ 農地バンクとJAが連携し、遊休化した果樹園地を整備
- ✓ 育成した樹園地を、新規就農者3名に転貸

### 地区の概要

中山間地域でもも、ぶどうを栽培する果樹地帯。高齢化、兼業農家の増加により担い手が不足し、**遊休農地の増加**が懸念される。平成28年に農地バンクの果樹モデル地区に設定。

### 取組の内容

- ① 当地域では樹園地の借り手を地縁・血縁のつながりから探す傾向が強く、貸出し農地は耕作放棄地や老木化した樹園地が多かったため、**新規就農者への貸付けがなかなか進まなかった**。
- ② そこで、平成27年度から農地バンク、県、JAふえふき営農サポートセンター、市が対応を協議。農地バンクはJAサポートセンターからの出し手情報をもとに**放棄園50aを借り入れ**、県単独事業を活用して**伐採・除根等の再生整備**を実施。農地バンクから委託を受けたJAサポートセンターが、再生した樹園地に**ももの苗木を改植**、農地バンクの**借受農地管理等事業**を活用し、**育成・圃場管理を3年間実施**した。
- ③ その後当該農地での収穫が見込まれたため、関係機関において広く周知を実施。県・JAを中心に貸付け先の調整を進め、**新規就農者3名**に転貸された。

### 取組の成果

- ✓ 農地バンクとJAが連携し、**放棄された樹園地を再生**。
- ✓ 新規就農者は、**成園を借り**ることで、**初年度から収益を確保**。
- ✓ 受け手の声「**当分改植の必要がないため、労力や経費の負担が抑えられた**。」

### 農地バンクの活用による地区内農業の変化



活用前



活用後

遊休化した樹園地

ももの苗木を植え、3年間管理・育成

#### 農地バンク活用実績

借入面積	0.5ha
転貸面積	0.5ha
新規集積面積	0.5ha